

ICAN Monthly Report



「プロセス」が「災害に強い地域」をつくる。

<災害の影響を受けた子どもたちの事業：担当職員からの現地レポート>

昨年 11 月の台風により、壊滅的被害となったレイテ島東海岸部のドゥラッグ町で、倒壊した家屋や校舎の建設・修理等に取り組んでいる福田です。8 月末までの時点で、家屋は目標の 3,415 世帯中 3,068 世帯 (90%) が完成し、校舎は目標の 120 教室中 13 教室 (11%) が完成しました。

この 2 つの活動の特徴は、その主な担い手が、地域のお父さん、お母さんたちであることです。多くのお父さんたちが、大工になる研修を受け、その後、アイキャンの緊急雇用の大工として雇われ、建設作業に携わっています。また、お母さんたちは、時間や備品の管理係として働いています。こうして、地域の再生が、地域住民によってなされ、同時に住民は、技術と収入を手に入れることができます。その収入で、壊れたバイクタクシーを直したり、雑貨店を開店したりするケースがでてきています。

今回の台風災害では、近所で声を掛け合い、事前に避難できた地域の人的被害は、最小限にとどまりました。「災害前よりも強い地域」を作る (Build back better)。その目標のために必要なのは、頑丈な建物はもちろんですが、地域をよくするために協力し合える環境 (地域力) だと考えています。「住民ができることは、住民がする」、「住民の経験の機会を奪わない」というプロセスへのこだわりは、活動 1 日目から 10 ヶ月間続いています。地域の壊滅的な状況が、自分たち自身の手によって復興に近づいていると実感したとき、住民は、どのような困難な状況が今後訪れようとも、地域の仲間と力を合わせれば、乗り越えていけると確信するのだと思います。

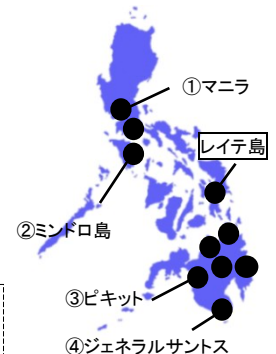
先日、学校修復に携わっている男性が、「自分の子どもが大きくなって、この学校で勉強するようになったら、お父さんがこの学校を直したと自慢したい」と誇らしい表情で語ってくれました。被災直後、一切聞くことのなかった「将来に向けての前向きな発言」が出てくることに、10 ヶ月の地道な活動の成果の 1 つがある気がして、嬉しく思いました。

依然として、課題は山積みです。レイテ島内の資材は圧倒的に不足していますし、値段も高騰しているため、資金不足に陥っています。スタッフの疲労もとても大きいものがあります。地域の人々と日本のパートナーの皆さまに励まされながら、1 日でも早く、人々が「復興」と呼べる日を迎えたいと思います。



ICAN レイテ事務所
福田浩之 (ふくだひろゆき)
～プロフィール～
1988 年生まれ。社会福祉士。フィリピン大学修士課程、ICAN ミンダナオ島先住民の子どもの事業担当を経て、現担当。

Project Site



※●は ICAN 活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アジア日本相互交流センター・ICAN

アイキャンはフィリピンで 20 年間子どもたちの状況をよくするために活動している NGO です。
愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp
ホームページ: <http://www.ican.or.jp> フェイスブック: <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

① 路上の子どもたち(マニラ)

8月25日(月)

路上のリーダーが地域の子どもを守る



ICAN が組織した路上の若者のリーダーたち

マニラの路上の若者リーダー19名に対し、彼ら・彼女らが各地域の路上の子たちに「子どもの権利」を教えることができるように、研修を行いました。参加したエルシーさん(16歳)は、「参加者の注意を引くコツを学べた」と話しました。

② 電気がない村の子どもたち(ミンドロ島)

8月5日(火)

安全に飲める水を自分たちの手で



150名が参加した住民集会

山奥の滝を利用した小水力発電を導入するにあたり、住民集会を開きました。水の浄化も可能にするこのシステムの維持管理メンバーになったアポリナリオさん(52歳)は、「安全な水を手に入れるため、システムを皆で守っていきましょう」と強く呼びかけました。

③ 紛争地の子どもたち(ピキット)

8月6～9日、13～16日

平和は、相手を傷つけない言葉から



研修の感想を述べる教師

小中学校7校の教師38名に、「平和的な紛争解決方法」の研修を行いました。争いの火種を作らないようにするためには、相手を傷つけない言葉を選ぶことが大切と学んだムラさん(30代)。「生徒との対話でも意識していく」との思いを新たにしました。

④ 先住民の子どもたち(ジェネラルサントス)

8月6～19日

村の子どもを取り巻く解決を把握しよう



インタビューする児童

小学校5校の児童会役員25名が、地域の課題について、大人に聴き取り調査を行いました。「教育は大切なのに、空腹や妹弟の世話、収穫等で通学できない子どもがいる」と学んだクインシーさん(12歳)。次回の研修で児童会として取り組みを発表します。

今月の ICAN を増やす活動

スタディツアー・研修事業

8月6～10日、20～24日

帰国後も「あの子」を想って

スタディツアーを2回開催し、6歳から57歳まで、計15名が参加しました。プランAに参加した20代の女性は、「帰国後、あの子たちは今日ごはんを食べられたかなと想いを馳せている。想いをともにする仲間もでき、ツアーが今後の生き方を考えるきっかけになった」と語ってくれました。(次回は12月)



今月の Topic

JICA 公開セミナー(東京)

8月28日(木)

NGO の特性を活かして

国際協力機構(JICA)で開催されたセミナー「台風30号『ヨランダ』から10ヶ月」に、事務局長井川がNGOを代表して登壇しました。アイキャンが住民と信頼関係を築きながら行なってきた救援活動に対し、一般の参加者やJICA関係者(計89名)からの関心も高く、質疑応答も多い、活発なセミナーとなりました。



今月の ICAN なる人

インタビュー:8月26日(火)

マンスリーパートナー* 古味安子さん 「一日一回、『ありがとう』を言える、言ってもらえる日々を」

仕事が落ち着いたなら何かしたいと以前から思っていたところ、書き損じハガキの寄付ことを知って早速アイキャンに送りました。それを機にマンスリーパートナーを募集していることを知り、「できる範囲で」と思い、毎月1,000円の寄付を始めることにしました。

マンスリーパートナー特典のバースデーギフトが届いた時は、感動しました。気持ち程度の寄付しかしていないのに、フィリピンの子どもたちが一生懸命作ってくれたギフトとメッセージをもらい、こんなに喜んでもらえるなんて嬉しくて涙が出て、その気持ちを伝えたくてアイキャンに電話してしまいました。小さな事でも、こうしてフィリピンの子どもと繋げていただけて幸せです。ギフトは今でも、お友達に見せて紹介しています。

最近は、事務所でのボランティアもさせていただいています。いつも「ありがとう」と言ってもらえますが、私自身は「させていだいた」という気持ちなんです。ありがとうと言ってくださること、お手伝いに来られることが嬉しくて、また来ようといつも思います。一日一回、「ありがとう」を言いたいし、言ってもらえる日を過ごしたいです。フィリピンの子どもたちには、アイキャンとの幸せな出会いを大切に、皆さんの毎日が明るく元気でありますようにと願っています。



☺ 古味さん、温かいメッセージをありがとうございました!

マンスリーパートナーは、月々1,000円(1日あたり33円)から始められるご寄付の制度です。ぜひマンスリーパートナーになって、アイキャンの活動を応援してください。詳しくはホームページ(http://www.ican.or.jp/j/my_ican.html)をご覧ください。メール(info@ican.or.jp)またはお電話(052-253-7299)にて、ICAN 日本事務局までお問い合わせください。